

平成27年を迎えて

院長 瀬戸嗣郎

今冬はRSウイルスの大流行で、呼吸不全をきたす乳児が多く入院しました。インフルエンザの流行も早く、この冊子が発刊される頃には、どれくらいの規模の流行になっているか心配なところでした。昨年も、多くの医療機関から患者さんのご紹介をいただき、また当院からの逆紹介もスムーズに受け入れていただき誠にありがとうございました。本年も医療連携に一層の努力をしておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、入院患者数は前年並みでしたが外来患者数が漸増傾向で、総じて順調な歩みでした。循環器センターは、他施設では治療の難しい超重症の心疾患を県外からも多く受け入れました。11月にはカテ室をハイブリッド手術室に改造し、カテと手術が同時進行できる体制を整えました。NICUは、1,000g未満の超低出生体重児の受け入れが48例と過去最多を数え、500g未満のベビーも稀ではなくて、入院が長期化するので常に満床状態でした。来年度中に15床から18床に増床する予定です。こころの診療センターもニーズが高く、外来、入院とも一杯の状態です。救急部門はPICUが県内の小児救命医療の最後の砦としての役割を変わず果たしています。ERが開設一年を迎えました。少しずつ周知されてきた感がありますが、当初から目的としていた静岡市外からの受診者がまだまだ少なく、市外への広報と連携の必要性を感じています。

外来棟が築37年を過ぎ、設備の老朽化が深刻で、対策が待ったなしの状況でした。ようやく昨年6月に、念願の新築・改築が始まりました。まず、本年3月に新築の二階建ての外来棟が完成し、診療に供されます。続いて旧外来部分の内装を順次改築し、来年の2月頃にはすべてが完成する予定です。これまで患者さんに様々な不便を掛けてきましたが、アメニティーも含めて大幅に改善されると思います。また、相談機能や在宅支援機能が十分でなかったのですが、これを機に専用部門・ブースを設けることによりレベルアップを図ります。ご期待ください。本年もご支援の程お願い申し上げます。

news ハイブリッド手術室を整備しました

昨年12月に既存のカテーテル検査・治療室を改造し、ハイブリッド手術室として整備しました。これにより、心臓血管や脳血管疾患等の内科的な検査・治療と外科手術を同時に実施することができ、治療の安全性・確実性・迅速性の向上が期待されます。

小児専門医療機関でハイブリッド手術設備を導入している施設は全国でも数少なく、当院での導入が静岡県内外の小児医療の発展につながるよう、可能な限り患者を受け入れてまいります。



特殊外来の紹介

外来には診療科の診察だけでなく、
いろいろな特殊外来があります。



●●● 糖尿病外来 ●●●

糖尿病の患者様や御家族に、内分泌代謝科医師、栄養士、臨床心理士、看護師のスタッフがチームを組んで関わっています。

糖尿病と診断されると病棟に入院し、指導・コントロール後、糖尿病外来で、その後のフォローをしています。血糖コントロールの状況、病気の知識、理解度の確認、食生活、日常生活のアドバイスをしています。さらに、血糖測定器の業者の協力を得て、器械の作動確認などを行っています。

●対象

I型およびII型糖尿病の患者・家族

●日時

毎月第1水曜日 13:00~17:00

●外来の流れ

計測⇒診察⇒血液・尿検査⇒面談、指導など

毎月の受診者数は
20人前後

I型：9~18人
II型：1~2人



●各スタッフでのチェックポイントは…

内分泌代謝科 医師	現在の身体状況の確認、病気の知識、理解度の確認、血糖値のコントロールの状況
栄養士	栄養指導 食事内容のチェック
臨床心理士	家族、本人への心理的援助、成長発達のフォロー
看護師	血糖値のコントロールの状況、日常生活、食生活、学校生活のアドバイスなど

●患者さんの声

お腹がすいちゃうから、
もっと食べたいなあ。
⇒食事内容や食べる時間など工夫してみよう。

部活を引退したら運動
しなくなった。
⇒運動も大切だから続けよう。
家族でウォーキングと
かいいね☆

糖尿病っていわれても、
どうしていいのかわかんない。
⇒病気のこと、一緒に勉強してみよう

糖尿病のこと、患者様について相談、問い合わせは、外来糖尿病担当が受けています。
気軽に聞いてください。

地域医療連携 Q & A

地域医療支援病院である当院は、日頃から、地域の開業医や保健機関等から多くの様々な医療相談を受け付けています。このコーナーでは、そうした相談の中から、よくある質問と回答を紹介いたします。

無熱性けいれん発作について

【質問】

小児の初発の無熱性けいれん発作に投薬を開始すべきでしょうか？

【回答】

基本的に初発の無熱性けいれんでは、抗てんかん薬の投薬は開始しません。

理由は、

- ① 1回の発作だけで再発しない症例がかなりあること（1年以内再発約30%）。
- ② 再発した場合は、次へ発作のリスク（次の1年約60%）、次までの期間の短縮が認められることが多いので、再発のあった場合に投薬開始でよい。
- ③ また、初回発作は、周りの者もなれていないため、本当の発作か迷うことが多い。（心原性、心因性などの除外が必要）

ことがあげられます。

例外は、乳幼児では良性乳児発作、胃腸炎関連性けいれん、年長児でもローランドてんかん、Panayiotopoulos症候群（特に重積が多く、注意が必要）など良性てんかんでは回数も少なく、投薬の必要のないこともあります。

ただし、片側のけいれんなど脳波異常、頭部画像上の器質的な疾患の除外が必要な例も有り、また、投薬の有無によるご両親、本人の不安の問題もあるので、ご紹介いただければ幸いです。ある程度方向性がつけば、将来的には静岡てんかん地域ネットワークを活用し、地元で診ていただくことを考えています。

（神経科 渡邊誠司）



トキソプラズマについて

【質問】

妊娠初期のスクリーニング検査として、トキソプラズマや風疹の検査が行われています。トキソプラズマIgM抗体が陽性の場合、その対応はどのように行えばよいでしょうか。

【回答】

トキソプラズマは猫との接触や生肉、未洗浄の野菜の摂取などによりヒトへ感染します。妊娠中に初めて感染すると、胎児に先天性トキソプラズマ症をきたす可能性があります。検査方法として、トキソプラズマIgG、IgM抗体価の測定が行われています。IgM陽性の場合、急性期の初感染またはpersistent IgM血症の2つの可能性があります。その際、IgG Avidity（抗体結合力）Indexを測定することで両者を鑑別することができます。Avidity Indexが20%以上であれば、初感染後4ヶ月以上経過している慢性感染と判断できます。Avidity indexは検査会社との契約です。当院では検査可能です。判断にお困りの際は当院へご紹介ください。

（産科 堀越義正）



news

ホームページを リニューアルしました



平成26年12月にホームページをリニューアルしました。
正確な情報をわかりやすく発信できるよう、
見やすいページ作りをこれからも心がけてまいります。

クリスマス会♪

当院では、子供達の療養環境の向上を図るため、季節に合わせて様々なイベントを催しており、去る12月24日には、病院内でクリスマス会を開催しました。ボランティアや病院職員によるパフォーマンスやサンタクロースの登場に、会場は楽しい雰囲気に包まれました。



news

第3回 Mt.Fuji Network Forum を開催しました

小児循環器領域を中心とした学術フォーラム「第3回 Mt.Fuji Network Forum(実行委員長 坂本喜三郎副院長兼循環器センター長)」を、平成27年2月27日(金)、28日(土)に日本平ホテルで開催しました。このフォーラムは、国内はもとより海外(カナダ、アメリカ、韓国、香港、シンガポール、マレーシア等)も含む国際的な小児医療の拠点施設となることを目指す当院が、その足がかりとして各国と国内主要施設間のネットワーク強化を目的として開催したものです。今回は、「フォンタン循環」をテーマに、国内外の小児循環器領域トップクラスの医師約150人が集まりました。

講演会のお知らせ

○予防接種講演会

日時：平成27年3月11日(水) 18:00~19:00

場所：静岡県立こども病院 大会議室

演題：予防接種の最近の話題

—B型肝炎ワクチンの必要性および予防接種の安全性の問題を中心に—

講師：帝京大学医学部附属溝口病院 小児科教授 渡辺 博 先生

○CAP委員会講演会

日時：平成27年3月20日(金) 18:00~19:30

場所：静岡県立こども病院 大会議室

演題：警察に通報するということ

講師：神戸パートナーズ法律事務所 弁護士 藤原 唯人 氏

